月報
岡崎の教育

平成28年6月1日
6月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
岡崎市教育委員会
教育長職務代理者
福應　謙一氏
この人に聞く…… 2
岡崎市サイクリング協会会長
井上　仁氏
羅針盤…… 2
六ツ美北中学校長
岡部　克彦
ふれあい…… 3
矢作西小　山本　浩司
特　集…… 4
川と共に生きる
環境に配慮した治水対策事業
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
竜盲交流　（昭和54年）
この本を…… 8

教育随想

アクティブな学びを期待

岡崎市教育委員会
教育長職務代理者
福應　謙一　氏

一学期もほぼ半ばに至り、各学校においては落ち着いた雰囲気の中で充実した学習が展開されていることでしょう。

さて、私事で恐縮ですが、生き甲斐の一つに、旅先での早朝地域散策があります。見知らぬ土地で新たな発見のある至福のひと時です。城下町、港町、また温泉地等、その顔は様々ですが、自然を生かし、河川や公園が整った美しい景観に出合うと、何となく心の安らぎを覚えます。

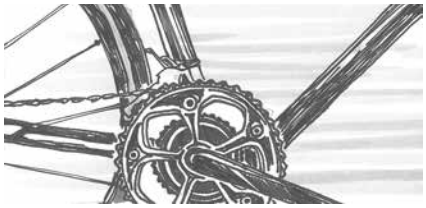
先だって友人と出かけたときのこと、朝食前の散歩で城下近くの県立高校前を通りかかったところ、正門前で待つ十数人の生徒一人一人から「おはようございます」の丁重な挨拶を受けました。どの生徒も背筋を伸ばして正対しての挨拶でした。生徒同士も到着した順に一人一人と挨拶を交わし合っているのでした。日常的に定着しているのでしょう、明るく爽やかな挨拶ぶりに好感がもてました。思い起こせばその地は、明治維新のころ、優れた人材を多く輩出した土地柄であるだけに、そこの生徒も先人に続いて世の中の大切な一翼を担う人材になるのであろうと感じました。高い志をもって物事に取り組む生き方が、今の時代においても重要であろうと思い至った次第です。三河岡崎の地においても、学校教育という立場からこれからの世を力強く生きる人材を育成したいところであります。

ここのところ、アクティブ・ラーニングという言葉によく出合います。児童・生徒、そして、教師自身がアクティブであることがこの学びの前提であろうと思います。学びたくなる教材の用意、学び合える場面設定など、教師の力量にかかっています。事前の段取り、単元構想が重要です。用意周到な準備の基、問題意識の高まりとともに、子供たちは学習にのめりこみます。

子供たちを育てる教師の日々の営みは誠にささやかなもので、繰り返される部分も多いでしょう。その中でも、子供たちの伸びる芽、伸びようとする兆しを見出してあげたいものです。教師自身の豊かな感受性をもって、子供たちが意欲的に学ぶことのできる状況を多く設定していきたいものです。

（ふくおう　けんいち）

この人に聞く



自転車に乗る喜びを

岡崎市サイクリング協会会長
井上　仁　氏

「はじめは自転車には全く興味がありませんでした。自動車の整備工をやっていましたから。」

二十五歳のころ、自転車整備士が不足しているからと、自転車店に引き抜かれた。それから十年間、自転車の整備と販売に携わったが、三十五歳でリストラされた。

「子供は小さいし、どうしようかと思いました。兄が先に刈谷で自転車店を開いていました。メーカーの協力も得られるというので、岡崎で自転車店を開店することにしました。」

五年ほど経ったころお客さんに誘われ、自転車に乗り始めた。

「自転車に乗ることは好きではありませんでした。付き合いだと思って乗りましたが、速過ぎてついていけないのです。苦しかったですね。」

そんなとき、身内が糖尿病で苦しんでいた。何かできることはないかと自分なりに調べてみた。治療には、有酸素運動が効果的で、サイクリングもその一つだと知った。

「それまでは、自転車に乗ることはトレーニングだと思って、辛くても我慢していました。ところが、心拍数を上げないように乗ることで、有酸素運動になることを知りました。実践してみるととても気持ちがよかったのです。これだ、と思いました。頑張らなくてもいいのです。気持ちよく乗っていても体力はつくのです。僕が自転車に乗る本来の目的に、出合った感じでした。」

お客さんの中にも喘息（ぜんそく）を患っている人がいたので、一緒にサイクリングしようと誘ってみた。

「初めは二人でした。心拍計をつけて一時間くらい走ってみました。時々止まりながら体調に合わせて、いい汗をかきました。うわさを聞き、だんだん参加人数が増えました。今も土日にツーリングを行っていて、多いときには、三十人くらい集まります。初心者の方も高齢の方もいますよ。」

その活動が、岡崎市サイクリング協会の人の目に留まり、請われて会長に就任した。以来十一年が経った。

「協会では多くの人が楽しめる企画を考えています。ツールド三河湖はその一つです。第七回のときには、参加者は一二〇〇名ほどになりました。インターネットでの申し込みは、開始早々定員に達してしまったほど人気になりました。自転車に乗ることを楽しむ人は大勢いるのです。」

昨今、自転車人口は増加している。ただ、自転車の事故も多い。

「歩道を走る自転車がたくさん事故に遭っています。本来自転車は車道の左側を走るべきなのです。車と自転車が共存し、お互いが快適に走れるようになるといいですよね。買ってもらった後に、安全に楽しく自転車に乗ってもらえるようにすることこそが僕の仕事です。」

自転車に乗ると、頑張らなくても体力が付く。自転車に乗る喜びを、多くの人に伝えていきたい。まだまだ井上氏の活動は続いていく。

（氏　名　いのうえ　ひとし
生年月日　昭和三十年十一月二十五日
住　所　岡崎市緑丘）

羅針盤

不登校生徒に寄り添う

六ツ美北中学校長
岡部　克彦

不登校生徒の多さに日々頭を悩ませている。学業不振や自信喪失による自己肯定感の欠如、家庭環境の問題、発達の問題、いじめや友人関係のトラブルによる集団不適応等、様々な要因が複雑に絡まる中、解決の道を探っているのが現実である。

忘れられない生徒Aがいる。

小学校のころから不登校で、中学校二年生になってもほとんど登校できない状態だった。家族は三人で、働けない母と障がいのある弟がいる。生活保護を受けながらの生活で、家はごみ屋敷の様相を呈していた。定期的に家庭訪問を続ける担任からは明るい報告を受けることがなかった。

転機となったのは、支援をお願いしていた学校相談員からのアドバイスだった。ケース会議を開き、学校としてやれることを検討した結果、

みんなでやる方が楽しい

矢作西小　山本　浩司

また友達とけんかでもしたのかなと、一人でいるA男の背中を見て思った。五年生のA男は、活発で行事に熱心に取り組む一方、自分の思いを上手に伝えられず、友達とトラブルになってしまうことが度々あった。

そんなA男に、互いの考えを認め合い、みんなでやることの楽しさに気付いてほしいと思い、「会社活動」を取り入れることにした。会社活動とは、みんなが楽しくなったり、助かったりする自主的な活動である。学級の子供たちに提案すると、子供たちは、学級のために活動できるよい会社を作ろうと、お笑い会社や整頓会社などを次々に考えた。

A男は、二人の友達とくじ引き会社を立ち上げた。くじを引いてもらい、自分たちが描いたイラストを景品として贈る会社である。三人は、早速休み時間にも景品を作製するなど、熱心に準備を始めた。しかし、いらいらしながら一人だけでイラストを描くA男の姿が見られるようになった。二人の友達にどうしたのか尋ねると、A男が仕事を割り振り、勝手に進めてしまうことに不満を訴えた。A男の思いが上手に伝わっておらず、空回りしているようだ。そこで、A男に三人で話し合うことを勧めた。しかし、どうせ言っても無駄と言い放ち、話し合いにすら乗り気でなかった。このままでは、A男がまた孤立してしまうかもしれない。

私は、互いに考えを認め合うことが必要と考え、なぜこうなったかA男に問いかけた。すると、「あいつら協力してくれない」とつぶやいた。では、自分の考えをきちんと伝えたかと、重ねて問いかけると、

「話したけど、休み時間は遊びたいって言うから、けんかになった。」

と答えた。つまり、互いに主張するだけで、歩み寄っていないのだ。

「君のやる気はすごいと思うよ。でも、無理強いしてないかな。自分が反対の立場だったらどう思うかな。」

と相手の気持ちを想像するよう促した。A男は、わずかにうなずいたものの動けないでいた。そこで、一緒に話を聞こうと声をかけると、ぱっと顔を上げ微笑んだ。

A男は、私も一緒に話を聞いていることに安心したのだろう。強制したことを素直に謝り、自分が家でもくじを作ってくるから、毎日決まった時間にみんなで活動をしようと提案した。その態度と熱意に動かされ、二人も納得して活動が再開した。

数日後、くじ引き会社の周りには人だかりができていった。私もくじを引きながら、みんなが楽しめる会社になったと褒めると、

「二人が協力してくれたからね。」

と誇らしげに答えたA男。会社活動の成功体験により、互いに歩み寄ることの大切さを実感できたのだろう。

今では、A男が一人で過ごす姿はほとんど見られなくなった。A男の笑顔は、「みんなでやる方が楽しい」と物語っているようだった。

まずごみを片付ける手助けから始めることにした。担任の家庭訪問の際にごみを少し持ち帰ることや、本人に買い物袋一袋ずつごみを持って夜間登校をすることを促した。こうした取り組みを継続することによって、母親にも何とかAを学校へ行かせようという気持ちの変化が表れ始めた。そしてAは、三年生を機に登校を始め、ほとんど休むことなく卒業した。

その後、職業訓練校を経て就職。まじめな働きぶりを評価され、勧められて、働きながら定時制にも通うまでに自立することができた。

どんな手を打っても、すべての生徒がAのように自立の道を見つけられるわけではない。それでも私たちには、あらゆる可能性を模索し続けなければならない。報われることの方が少ない地道な努力の積み重ねでもある。

教師の何気ない一言や、ふとした行動が、子供たちを包む光になる。時には深く傷つける刃にもなる。そのことを私たちは常に肝に銘じていなければならない。子供たちの心からの笑顔を見るために、これからも周りの人からの助言も大切にしながら、生徒それぞれに応じた支援の仕方や指導方法を工夫し、一人一人を大切にする教育を目指していきたい。

川と共に生きる
環境に配慮した治水対策事業

▲ 鹿乗川清掃活動（矢作西小）

平成二十年八月末に襲われた岡崎豪雨はいまだ記憶に新しい。そのとき、岡崎市一年間の平均雨量の八分の一が一時間で降った。

川は、時に大きな被害をもたらす。しかし、一方で私たちの暮らしと密接に関係している。田に豊かな水を与え、人々の憩いの場ともなる。川なくして、私たちの暮らしは成り立たない。それゆえに、防災や環境保全の観点から行政が行っている事業を知り、川について学ぶことは大切なことである。

川と共に生きていく、それは持続可能な社会の実現の一端である。未来に向け、子供たちと地域の人々がそれぞれどのように川と関わっていけばよいのか、考えていきたい。

《各校の取り組み》
総合的な学習を中心にした地域での活動

▲ 伊賀川沿いに彼岸花の移植（葵中）

▲ 鹿乗川の水質調査（矢作西小）

▲ 伊賀川清掃（広幡小）

▲ 豪雨によって浸水した地区での現地調査（城南小）

伊賀川

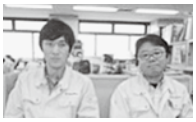
川底を堀り下げるために掘削工事を行い、多くの桜を残すことができた。

▲ 平成 20 年豪雨直後の伊賀川沿いの家屋

災害のない川づくり

～床上浸水0（ゼロ）を目指して～

多自然の川づくり



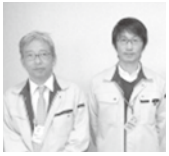
西三河建設事務所
河川港湾整備課
齋藤　圭亮 氏
間宮　健太 氏

伊賀川改修の一番の目的は、流量を増やして床上浸水被害を減らすことでした。工事では、工期を短縮することと景観に配慮して桜並木を残せるように、川幅を広げるのではなく川底を掘り下げる「掘削工事」を選択しました。桜並木を改修前の七割は残す、という目標数値を、ほぼ達成することができました。

改修工事について梅園小学校で話をさせて頂きました。お礼の手紙をいただき、うれしかったです。

梅園小児童の手紙

「この工事は私たちの命を守るためのもので、桜の木もできるだけ残すように考えてくれていたのだということが分かり、とてもうれしかったし安心しました。」



岡崎市土木建設部
河川課
神谷　秀樹 氏
新美　正紀 氏

占部川を改修しました。

今回の治水対策事業では、河道拡幅だけではなく、下水道・遊水地・貯留施設の整備にも力を入れました。床上浸水は市民の生活に与えるダメージが大きいので、みなさんの生活を何としても守るために、床上浸水ゼロを目指しました。

また、環境に配慮した川づくりを実施するために、アドバイザーの助言を参考に、多自然の川づくりに努めました。

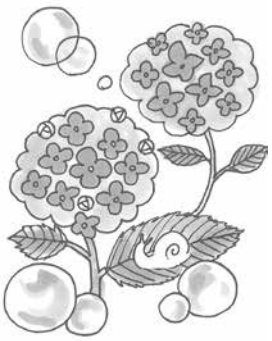
占部川

護岸から鋭角に突き出した石積み（バーブ工）をあえて作り、自然な水際を作ったり、流れに緩急をつけたりした。

半年後

深さや流れが変わることにより、半年ほどで瀬や淵ができ、魚がたくさん集まるようになった。

お知らせ



●教育研究所 教育図書室

教育研究所内にある教育図書室は、毎年新刊の教育図書を購入し、蔵書数六千二百冊を誇る。他にも、学習指導案、学芸会脚本、運動会ＤＶＤについても、新しいものが年々追加されて、充実したものとなっている。

教育図書室は、平日は午後八時まで開館しており、利用しやすくなっている。多くの教職員が教育図書室を積極的に活用し、日々の教育活動に生かしてほしい。

○所在地
岡崎市上地三丁目十二
総合学習センター（三階）
○電話　八三―七七七〇
○休館日
日曜日・月曜日・祝日（月曜日が休日の場合は、火曜日も休館日）
○開館時間
午前九時～午後八時
（土曜日は午後五時まで）

▲学習指導案の検索（初任者研修）

●表　彰

◆愛知県中学生体重別柔道大会

○男子60kg級
優勝　東海中　竹市　大祐
○女子70kg超級
三位　六ツ美北中　都築　結衣
○女子40kg級
三位　北中　市川　華加

●小中学校の様子

平成二十八年度の岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校数や学級数、児童生徒と教職員の数を表に示した。

昨年度と比較すると、一校あたりの児童・生徒数は、小学校が五名の増加で、中学校が十一名の減少となった。そして、一校あたりの学級数（特別支援学級を含む）は、小学校が変わらず、中学校において一学級の減少となった。また、一学級（特別支援学級を含む）あたりの児童・生徒数については、小学校が三名の増加で、中学校が四名の増加となった。

岡崎市内の全小学校の児童は二七五名増加し、全中学校の生徒は二三三名減少し、総数では四十二名の増加となった。

教員数は、一〇五名の増となった。再任用教員は、五十二名である。

教員補助者は、十一名の増加で、総数二一五名である。そのうちの九名は、養護教諭支援員である。英語支援員は、十八名、ＡＬＴは二十名である。

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
１校当たり児童・生徒数	467人	544人
１校当たり学級数	17学級	17学級
１学級当たり児童・生徒数	30人	35人

●学年別児童・生徒数（人）（平成28年度5月1日現在）

	小学校						中学校		
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
男	1,992	1,918	1,932	1,899	1,796	1,843	1,811	1,941	1,860
女	1,784	1,783	1,720	1,795	1,751	1,757	1,698	1,755	1,811
計	3,776	3,701	3,652	3,694	3,547	3,600	3,509	3,696	3,671

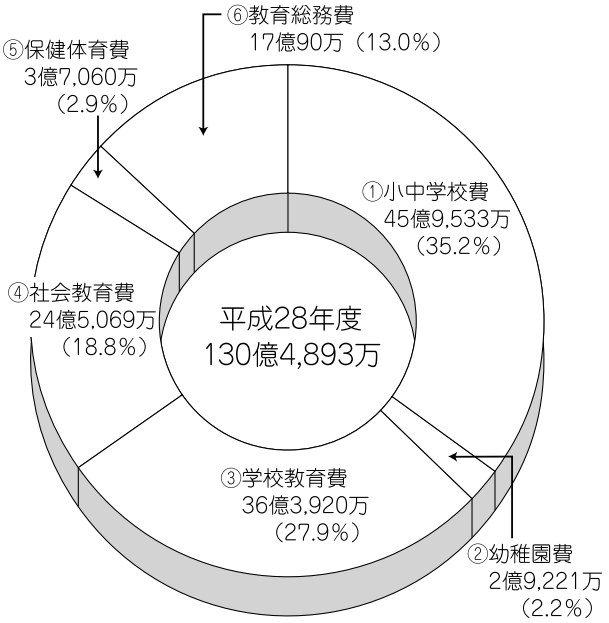
●児童・生徒・教職員数（人）（平成28年度5月1日現在）

区分	学校数	学級数〈内特別支援〉	児童・生徒（人）			校長・教頭・教諭（人）＊養護教諭・期限付き講師・再任用含む			栄養教諭・職員（人）	事務職員（人）	養護教諭（人）
			男	女	計	男	女	計	県	県	県
小学校	47	807〈105〉	11,380	10,590	21,970	459	678	1,137	9	55	50
中学校	20	343〈48〉	5,612	5,264	10,876	382.5	273.5	656	3	26	24
合計	67	1,150〈153〉	16,992	15,854	32,846	841.5	951.5	1,793	12	81	74

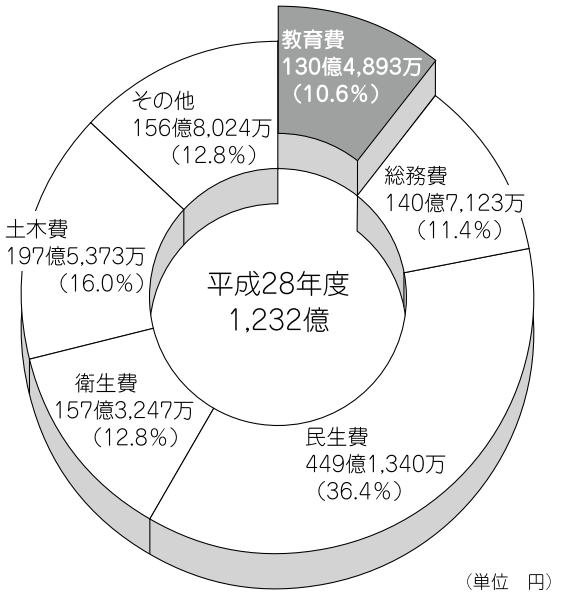
平成28年度　岡崎市の教育予算

飛躍の年　次の100年に向けて歩みを進める予算

〈教育費の内訳〉



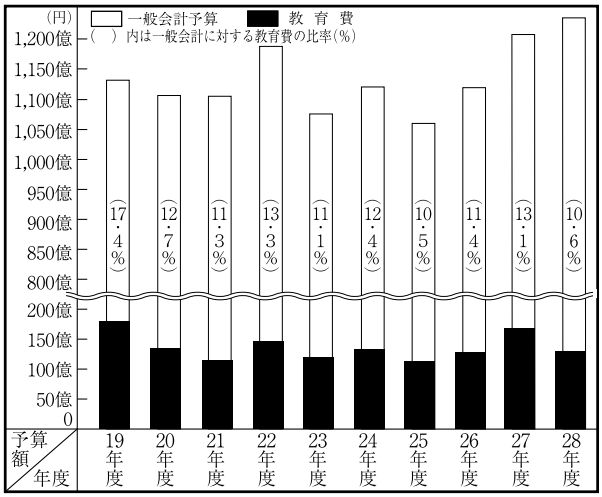
〈一般会計予算〉



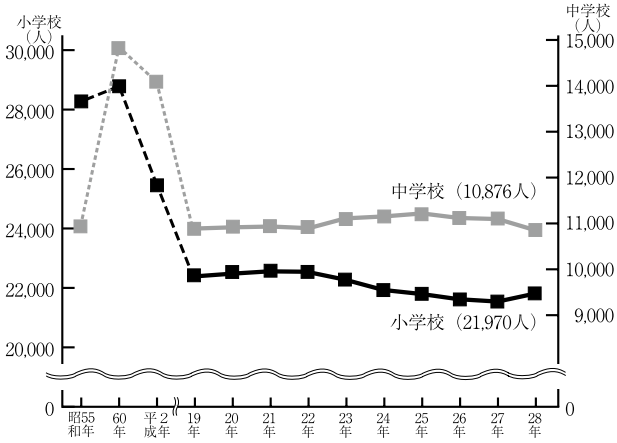
◆平成28年度のあらまし◆

小　中 学校費	校舎増築整備（岡崎小・常磐南小・岩津小） 東海中学校プール施設改築 音楽室等空調整備 （甲山中・美川中・南中・竜海中・葵中・城北中・東海中・岩津中・矢作中・矢作北中・竜南中・北中・六ツ美北中・翔南中 便所簡易改修（根石小・井田小・大門小・矢作南小） 屋体・校舎外壁等改修（美合小・藤川小・恵田小・岩津小・矢作北小・矢作中・矢作北中） 便所全面改修（緑丘小・常磐南小・常磐小・美川中） 高圧受電設備改修（矢作東小・城南小） 強化ガラス取替（矢作東小・六ツ美中部小・六ツ美南部小・矢作中） 屋内運動場照明設備改修（奥殿小・甲山中・葵中・福岡中・東海中・矢作中・矢作北中・新香山中・竜南中・北中・六ツ美北中） 太陽光発電設備設置（大門小・六ツ美南部小・城南小） ※小中学校名は予定 就学援助事業（要･準要保護児童生徒、特別支援教育就学奨励）
学　校 教育費	行事開催事業委託及び指導研修 教育の振興、研究助成 児童・生徒の健康診断・健康維持 小中学校各種スポーツ大会開催 児童・生徒の健全育成、生き方教育の推進 ESD（持続可能な開発のための教育）の推進 スーパーサイエンススクールの推進 英語・数学・理科指導用タブレット型端末の導入・活用 学校情報メールシステム運用業務 理科観察実験支援事業 成績処理・進路指導システムの運用管理 小中学校100周年記念演奏会開催業務 小中学校校務支援業務 中学生三大陸国際理解教育推進業務 学齢簿・就学援助システムの運用管理 総合学習センター・教育相談センター管理運営 学校給食事業
社　会 教育費	家庭教育推進事業 生涯学習推進事業 青少年健全育成推進事業 文化財保存管理事業 文化財整備活用事業 視聴覚事業 少年自然の家管理運営及び施設整備事業
教　育 総務費	奨学金関連業務 私立高等学校等授業料補助業務

◆　一般会計予算と教育費の推移



◆　児童・生徒の推移（数字は毎年5月1日現在）



竜盲交流
（昭和54年）

写真提供：竜海中学校

今年度、障害者差別解消法が施行された。そして、岡崎盲学校教員による、市内小中学校への通級指導も始まっている。

写真は、昭和五十四年に行われた、竜海中学校と岡崎盲学校との、第一回の三年生学習交流の様子である。教師相互の学校参観や意見交換、生徒会役員の交流を重ね、「共に学ぼう」という信念のもと、「竜盲交流」を続けて四十年近くになる。

市内には他にも、聾学校や近隣の福祉施設と交流している学校がある。バリアフリーやユニバーサルデザインの重要性が叫ばれている昨今、私たちは、これらの学校の取り組みに学びながら、「共に生きる」教育を推進していかねばならない。

・カット　城北中　髙橋　みなみ

ホッと水無月

ホタルが舞い、若鮎が躍る。市内には、美しい光景の見られる川が流れている。しかし、時として、それは形相を変え、我々の生活を脅かす。

治水対策事業に関わる人々の思いは熱い。市民のために奮闘するその姿を、是非とも子供たちに伝えたい。

友達と一緒だから楽しいことが学校にはたくさんある。大人には見せない顔で話をしたり、遊んだりすることもあるだろう。

子供が他者と関わることで得るものは多い。交流の場や方法を考えるのは、教師の大きな役割の一つである。

月に向かって走る自転車。一昔前の、映画の象徴的な場面が頭の中に浮かぶ。

今や自転車は移動手段だけでなく、仲間作りや健康維持のための、大切な道具である。頑張らなくてもよい乗り方で、空を飛ぶような爽快さを味わってみたい。

（今年もツバメが　生平小）

＊好奇心を“天職”に変える　空想教室　植松　努
サンクチュアリ出版　￥1,250

心に残った一文

世界中から「どうせ無理」という言葉がなくなったら、いじめや暴力や戦争がなくなるかもしれない。

子供のころ、紙飛行機ばかり作っていた少年が、大人になりロケット開発の夢を実現する。北海道の小さな町工場でありながら、自社製ロケットを打ち上げ、人工衛星の開発に取り組む。

子供と共にロケットを作って、飛ばすロケット教室や講演などを通じて、子供たちに夢をあきらめないことを伝える活動もしている著者の、スピーチの書籍化。

苦労や難題を、前向きな思考とユニークなアイデアでチャンスに変える内容に、心がほっこりし、勇気をもらえる。

＊日本人の心、伝えます　千　玄室
幻冬舎　￥1,000

＊宮大工の人育て　菊池　恭二
祥伝社新書　￥760

＊愛着障害　岡田　尊司
光文社新書　￥860

奥殿小　内藤　隆之